

がんアドボケートセミナー2024

～日本のがんを取りまく問題に、がん患者・家族が深くかかわることができる社会をめざして～

- 開催日時 2024年 10月 13日（日）9:30-17:00
- 場所：国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟 セミナールーム
- 主催：公益財団法人日本対がん協会
- 後援：一般社団法人日本癌治療学会、一般社団法人全国がん患者団体連合会

当日プログラム・ご登壇者

■ 9:40-10:10（30分）

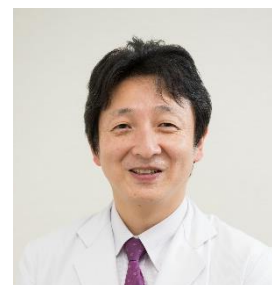
《アイスブレイク》

「事前動画振り返り～情報の取り扱いについて～」

佐々木治一郎 先生

北里大学医学部附属新世紀医療開発センター 教授

1991年 熊本大学医学部卒。熊本大学大学院在籍中、長男の白血病治療の血縁ドナーの経験を持つ。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医。2000年～2003年 米国 MD アンダーソンがんセンターに留学。2007年 熊本大学医学部附属病院がん診療センター長就任を契機に、熊本県のがん診療地域連携やがんサロンの普及活動に従事。2011年 北里大学医学部へ異動し、2014年 2月 より現職。緩和ケアやがんゲノム医療の診療の傍ら、ピアサポートやサバイバーシップケアなどがん患者・家族を支える仕組み作りと人材育成を目標に研究・教育にあたっている。



■ 10:10-10:55（45分）

「緩和ケアと支持医療のこれまでとこれから」

渡邊清高 先生

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 教授

東京大学医学部卒。医学博士。東大病院消化器内科、国立がん研究センターがん対策情報センターを経て2014年より現職。がん薬物療法専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、総合内科専門医など。

さまざまな学会における患者・市民向けプログラムの企画に参画。がん対策や政策研究に加え、がん支持医療や緩和ケアに関する信頼できる情報づくりと地域での連携を推進するプロジェクトリーダーとして、市民目線・現場視点での普及に取り組んでいます。



■ 11:05-11:50 (45分)

「患者支援のさまざまな資源 ～がん相談窓口の活用ついて～」

北見知美

公益財団法人日本対がん協会 相談支援室 マネジャー

社会福祉士

病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務したのち、2006年に日本対がん協会に入職。がん患者・家族の支援事業のひとつである、無料の電話相談「がん相談ホットライン」で相談員を務める。がん患者・ご家族はもちろんのこと、がんに関する不安や心配がある方なら誰でも利用できる相談窓口として、年末年始を除く毎日、相談を受けている。



■ 12:00-12:45 (45分)

《ランチョン》

「わたしたちにできること」

吉田久美 さん

国家公務員共済組合連合会平塚共済病院 ピアサポーター

2008年に乳がん発覚。2010年より平塚共済病院でピアサポーターとして非常勤で勤務している。同年立ち上げた「ガーゼ帽子を縫う会」やピアサポートを通して「最期までその人らしく過ごせるお手伝いがしたい」と思うようになり、2019年介護タクシーを友人と開業、2020年あいおぷらす（ピンクリボンふじさわ）で患者支援をしている。2015年、2023年と2度の局所再発を経験し、現在治療中。



大友明子 さん

乳がん患者支援団体 メンタル・スパ 代表 乳がんコンシェルジェ

2010年、生まれて初めて受けた〈がん〉検診のマンモグラフィーで左乳房に〈がん〉が見つかり、手術・抗がん剤治療・ホルモン療法を実施。9年目の定期検査（2019年）で反対側にも〈乳がん〉が見つかる。手術後、抗がん剤治療・放射線治療を受け、現在はホルモン療法中。罹患後6年間、認定NPO法人キャンサーネットジャパンにて、乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座・〈男性乳がん〉を担当。2020年6月に退職し、現在はフリーで学校や企業で〈がん〉啓発活動と、〈乳がん〉関連のセミナー司会進行、ピアサポーター養成のための講師などで活動中。認定心理士。一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所認定トレーナー



■ 13:00-13:45 (45分)

医療研究開発における患者・市民参画 (PPI) : AMED における
「社会共創」推進に向けて

勝井恵子 さん

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

研究開発統括推進室 研究開発企画課 社会共創推進グループ

2007年お茶の水女子大学文教育学部人文科学科哲学専攻卒業。2009年東京大学大学院教育学研究科修士課程修了、2015年同大大学院博士課程単位取得満期退学。2017年博士(医学)。東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野を経て、2017年よりAMED勤務。

医療研究開発における患者・市民参画をはじめとするダイバーシティ推進、倫理的・法的・社会的課題の対応やSDGs等「社会共創」に関する業務を展開。



■ 13:55-14:55 (60分)

「日本のがん対策とアドボカシー

～がん対策を知り、私たちができるがん対策を考える～

丹藤昌治 さん

岐阜県 健康福祉部長

広島県広島市出身。京都大学工学部と広島大学医学部を卒業。医師免許取得後、東京医科歯科大学附属病院などで臨床医療に従事し、2006年に厚生労働省に入省。以降、医系技官として、国や地方自治体などで、医療研究の推進、がんや感染症などの疾病対策、環境保健、労働衛生、診療報酬改定などに携わる。2023年7月より現職。現在は、岐阜県民の保健・医療・福祉の向上に努めている。



天野慎介 さん

一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長

1973年東京都生まれ、慶應義塾大学商学部卒。2000年、27歳のときに悪性リンパ腫と診断、2回の再発を経験し、自身の経験をもとに悪性リンパ腫の患者団体「グループ・ネクサス・ジャパン」の活動などに関わる。2009年から厚生労働省「がん対策推進協議会」会長代理を2期4年務め、2021年朝日がん大賞受賞。現在、一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長、厚生労働省先進医療技術審査部会構成員、患者申出療養評価会議構成員などを務める。



■ 15:10-16:45 (95分)

「わたしたちができること

～立場を越えてともに考えるグループディスカッション」

協力：一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングス



設立時メンバーの3人は、2019年がんアドボケートセミナーに参加した同期。セミナーのグループワークを継続する形で設立した任意団体を経て、「食道がんには患者会が無い」という事を知った食道がん経験者であるメンバーの呼び掛けにより、2020年7月に設立。現在は設立時メンバーに1名が加わった4名を中心に、昨年より顧問に秋野暢子氏を迎え、食道がん患者支援、交流会、食道がん啓発など全国統一目指して活動中。

事前動画プログラム・ご登壇者

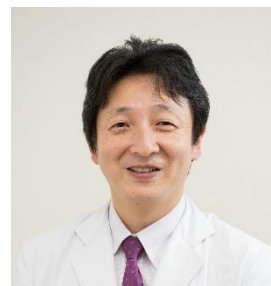
■ 動画1

「科学的根拠に基づく医療（EBM）とメディカルリテラシー」（約40分）

佐々木治一郎 先生

北里大学医学部附属新世紀医療開発センター 教授

1991年 熊本大学医学部卒。熊本大学大学院在籍中、長男の白血病治療の血縁ドナーの経験を持つ。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医。2000年～2003年 米国 MD アンダーソンがんセンターに留学。2007年 熊本大学医学部附属病院がん診療センター長就任を契機に、熊本県のがん診療地域連携やがんサロンの普及活動に従事。2011年 北里大学医学部へ異動し、2014年2月より現職。緩和ケアやがんゲノム医療の診療の傍ら、ピアサポートやサバイバーシップケアなどがん患者・家族を支える仕組み作りと人材育成を目標に研究・教育にあたっている。



■ 動画 2

「患者から『健康食品を使ってみたい』と相談されたら、どう対応すればよいのか？」(約 40 分)

大野 智 (おおの さとし) 先生

島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授

1998 年島根医科大学卒業。2002 年同大学院修了 (医学博士)。その後、金沢大学、帝京大学、大阪大学等を経て 2018 年より現職。

2022 年より副病院長 (安全管理担当)、2024 年より緩和ケアセンター長を兼務。これまでに『統合医療』情報発信サイト [eJIM] (厚労省委託事業)「がんの補完代替療法クリニカルエビデンス (日本緩和医療学会)」の作成に従事。近著に「東洋医学はなぜ効くのか (ブルーバックス)」などがある。



■ 動画 3

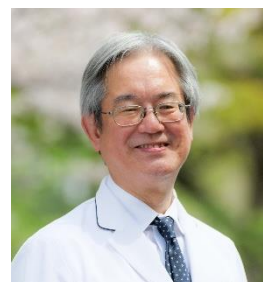
「サイコオンコロジー (精神腫瘍学) とは？」(約 40 分)

明智龍男 先生

名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 教授

私は精神科医なのですが、長くがん専門病院でサイコオンコロジーというがんの患者さんのメンタルヘルスに関する領域の臨床、研究、教育に従事し、大学に移っても、これらをライフワークとして

おります。特にがんの患者さん、ご家族の精神心理的苦痛をやわらげるための心理社会的な介入を専門にしております。現在は、臨床、教育の傍ら、一人でも多くの患者さんに適切な精神心理的なケアが届けられるようにスマートフォンなどのデジタルデバイスを用いた支援法の開発研究などにも取り組んでいます。



※各講演タイトルは 2024 年 7 月 21 日段階のもので (仮も含まれます)。

プログラムおよび講師は都合により変更になる場合があります。予めご了承ください。